

■ 3. 住民ワークショップ

①趣旨と全体の流れ

リビング・ヘリテージという生きる都市遺産の保全に対して住民自らの介入を推進するために、「2. 検討 ①スーク・シラーハと保存案対象建物」で紹介した6つの対象建物に対して、住民がなにを必要としていて、どのような使い方が望まれるのかという点を、住民に尋ねることを目的として行なった。オンラインを用い、日本側からはコメントを行い、議論の深化をめざした。住民たちが自分自身の希望を述べることは、まちづくりに関与しようとするのをあらわすと判断できると考えられる。

バイト・ヤカン周辺の住民を集めてバイト・ヤカンにて開催、1月8日女性、1月9日男性、1時から4時

なるべく回数を増やして、住民の意見を聞く。住民とは、スーク・シラーハ全体を対象とするわけではなく、トヨタ財団事業以来のバイトヤカン周辺に作られたコミュニティで、今回は男性と女性を別途考える。彼らの傾向として、男性は伝統的木工業従事者が中心で、女性は就学期の子供を抱える人が多い。

話し合う点、

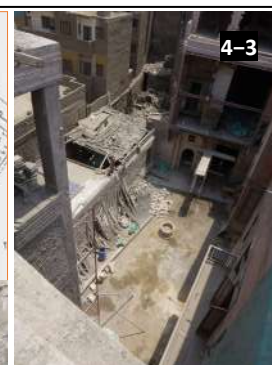
- 1) 今までのプロジェクトを振り返り、現在の問題点や良いところ、物語（無形遺産の収集）
- 2) サビール・クッターブなど現在利用されていない歴史的建造物の活用方法、特にサラがツーリストインフォメーションセンターに提案しているマンジャク宮殿の使い方
- 3) スーク・シラーハに必要とされるインフラや施設等
- 4) みんなの思い描く未来のスーク・シラーハとは
- 5) 住民目線で木工業の組合の在り方
- 6) 実際の事業がどこから始めて欲しいか

日本人協力者および関心のある人にオンラインで公開、アラール氏、サラ氏、および調査協力者（イマード、ファリス、ハーガル、ファティマ；建築家）がファシリテーターとして参加

成果物としては住民から集めた情報、歴史情報を盛り込んだビジュアルな地図（アラビア語、英語）、ワークショップ自体の記録

エジプトの場合、日本の商工会や町内会のようなコミュニティがないので、コミュニティ概念自体が異なる。住民ワークショップは、参加する人々が、面白そうだという意識を持つことが重要で、それがコミュニティ形成にあたる。

この基盤となったのは、筆者らが推進してきたバイトヤカンでの住民との活動である。重要な点は2016年から2018年に行った一連のワークショップ、さらに続けて現在でも開かれている女性と子供たちのワークショップ、あるいは木工業者の訓練所などの設営を経て、バイトヤカンを中心にコミュニティが形成され、みんなの場所、自分たちの場所として認識できるようになったという点である。



ヤカン邸 一部は17世紀に遡る住宅
トヨタ財団応募 2016年5月～2018年4月 「歴史的カイロにおいて歴史的建造物と伝統的居住様式を軸として持続的コミュニティを考える」
Alaa Habshi 29回のワークショップ女性+子供→男性
現在も草の根支援の職人訓練所の建設
Ola 主催の女性と子供のワークショップを持続中
WSを機に、コミュニティ形成、みんなの場所
<https://whc.unesco.org/en/canopy/cairo/>

これを応用すれば、もう少し広い、スーク・シラーハ通り、あるいはダルブ・アフマルを、自分たちの遺産として認識し、住民参加のまちづくりへとつなげていけるという前提のもとで進めた。

1月8日に女性、1月9日に男性という形で進めた。女性と男性に対し別なワークショップを設定したのは、女性たちは男性と一緒にだとなかなか本音で話し合えないという、イスラーム圏のジェンダー状況を配慮したものである。これは、従来のワークショップで身につけていたことであった。また、この地域の男性は工房に勤務あるいは経営の木工業者が多いことから、休日である日曜日が集まりやすいという事情を勘案したものであった。両日とも、バイトヤカーン階のホールに2つの大きなテーブルを設置し、数名ずつの2つのグループに分かれ、それぞれに住民の考えを建築として解釈するファシリテーターが二人ずつつく形で進めた。カイロ側日本人グループが、スーク・シラーハの地図に6つの建物とその特徴的な写真を貼り付けた台紙を準備し、そこにファシリテーターが付箋紙や直接の書き込みで住民の希望を書き出していくというスタイルをとった。ファシリテーターは、ダルブ・アフマルで長く保全に取り組む、建築家で大学教授のサラ氏とアラ氏他に、現況調査をともにに行った4名の建築家たちに依頼し、事前に連氏執筆の「保存まちづくりと住民参加のファシリテーション—エジプト、保存まちづくりの参考資料—」の英訳に目を通してもらった。

ワークショップはエジプト側および日本側のスタッフ紹介の後に、連氏が日本における住民参加のまちづくりを紹介し（本章の②に収録）、サラ氏とアラ氏からのダルブ・アフマル、スーク・シラーハ、歴史的町並みについての解説があった。筆者からサビール・クッターブやハンマームについて昔の建物機能の説明と、新たに考えられるような機能の紹介を試みた。新たな活用法として、以下にその写真を添付するが、伝統的喫茶店、手工業品売り場、土産物店、カフェ、運動クラブ、伝統的公衆浴場、美容室、共同洗濯場、共同焼物窯、共同調理場、共同パン窯、幼児塾、小展示場、図書館、コンピューター・カフェ、組合事務所、歴史博物館、小劇場、コンピューター教室、コミュニティ集会場、貸事務所、手工業展示場、旅行者センターなどを具体的事例として提示した。

これらを印刷し、ハサミで切って台紙に貼り付けることもできるように試みた。女性たちにとっては、この方法が親しみやすかったようである。



ファシリテーターとしてのアラー氏とサラー氏の説明については、本章の③で、それぞれのグループの結果およびアンケート結果は④で、日本側専門家のコメントと感想は⑤で詳述する。

従来のワークショップでも感じたことであるが、住民たちは自分たちの意見や疑問を伝えることにためらいはなく、活発な会話や議論が交わされる点は、エジプトの利点であると思う。女性の場合は、和気藹々と新たな利用についての希望のグループディスカッションが本音で進んだのに対し、男性の場合は道徳、近頃の若い子たちの逸脱した行動、ゴミやトゥクトゥクなどの建前としての問題点が議論されていたのは、対比的であった。女性たちはワークショップをみんなの場として楽しんでいただけたようだが、むしろ男性たちは、自分の意見を通したいという側面が目立ったように感じた。男性住民は、自分の殻が硬いようで、新たなものに躊躇を感じるのに対し、女性住民は新規プロジェクトに積極的で自分たちの住む地域をよくしていきたいという意欲に満ちていた。



1月8日女性住民のワークショップ

1月9日男性住民のワークショップ

後述の「■6. オンラインシステムについて」とも重なるかもしれないが、ここでは、エジプト側で生じたオンラインの状況と問題点について指摘したい。住民参加のワークショップについて、筆者はすでに経験済みであったが、会場を用いて日本とのオンライン開催ということで、さまざまな新たな困難が生じた。まず、カイロ旧市街でのネット接続ということで、安定したネット環境を保持することができずに、ネットの繋がり方の不具合が何度か生じた点がある。また男性ワークショップの日には、1時からの突然の停電で、開始時間が1時間余りも遅れるというハプニングがあった。Zoomの同時通訳機能を用いて、日本側とエジプト側を繋ぎ、エジプト側では基本的にはアラビア語で行うこととしたが、会場の声をzoomのマイクがうまく拾えていなかったと同時に通訳からの指摘があった。カイロ側ではノートパソコンを2台準備し、一台をホストとし、もう一台は通訳を日本語に切り替え、確かめながら行った。また、会場での臨場感とオンラインの向こうとは、かなりの温度差があるのではないかと感じた。日本側の意見を伝える場合も、ファシリテーターとしての建築家には理解されていたと思うが、住民たちにとってはやはり遠い世界のことと感じられている節が見当たった。むしろファシリテーターと日本側の事前および事後の議論を充実させることが重要であると思われる。

・ワークショップの計画

■趣旨：シーク・シラーハのイスラーム建築と街の良さを住民と共有し、6つの対象建物のコンサベーションにおける『何が問題で、何を求めるか』、このエリアに何が必要か、の意見を聞く。日本側からはコメントを行う。これらはこのエリアと6つの歴史的建物のリノベーションデザインの材料になる。

■日程・方式→ハイブリッドオンライン開催、(会場はグループ配置)

・第一回(1月8日13~16時、日本時間20~23時)女性

・第二回(1月9日13~16時、日本時間20~23時)男性

※2時間ワークショップ、1時間は食事会、

■役割分担

・カイロ側：深見(司会進行) 檜山と柏木(ホストPC、カメラ) ※通訳とはZOOMで繋げる。

説明・ファシリテーター→サラ、アラ(8日)、ファリス(9日)、記述助手→ファリス、ハガール、ファティマ、エマド

日本側への説明助手→ザブリン、サミル、

・日本側：連(WC説明、コメント)、松村(サブPC)、コメント→布野、岡田、磯野、荒牧、矢戸

■タイムスケジュール

※準備12:00~(19:00~) 会場セッティングと機器テスト

(A、B、2つのグループ配置、テーブルの中央に台紙とポストイットとサインペンを置いていく

会場の正面に、ホワイトボード1台、プロジェクター、マイク、スピーカー、スクリーン、メインパソコン、カメラ、ビデオカメラ)

スタート13:00~(21:00~)

①挨拶とスタッフ紹介(深見)5分 ※本日の目的、全体の流れ、カイロ側スタッフ紹介

②日本側スタッフ紹介とワークショップ説明(連、PPT利用)10分※住民参加の建築まちづくり事例

③シーク・シラーハへの思い(サラ、アラ、PPT利用)10分※このエリアを良くするキーについて

④6つの歴史的建築の特徴、期待される利用の説明(深見)5分

13:40~

⑤グループディスカッション(40分)(各ファシリテーターが司会進行)※助手は適宜日本側に状況説明

・参加者自己紹介(助手は台紙の上部に、参加者、ファシリ、助手の名前を記入する)

・6つの建物について順番に、質問や会話をリードして、順に指名し、意見を聞く形で進める。(助手は住民の意見をポストイットに記入して、適切な位置に貼る。※1枚に1つの意見を記入)

※住民から質問があれば応える。※使い方の事例写真を準備しておき該当するものを貼る。

14:20~

⑥グループ発表(15分)→7分×2グループ(A、B)

・ファシリテーターと住民1~2名で発表する(住民はファシリテーターが指名する)

※深見さんが司会進行を行い、各発表後に少しコメントをする。

14:35~

⑦日本側からのコメント(30分)→6分×5人

・布野、岡田、磯野、荒牧、矢戸、連

※深見さんから日本側に振っていただき、連が司会をして順に指名していく

15:00~

⑧まとめ(5分) 深見

(全体まとめ、これを元に更新案を作成する、3月のWMF共催ワークショップで更新案発表をする、アンケート説明)

○アンケート

(①本日のWS：良かった、普通、良くなかった、②興味のある対象建物に順番付け、③自由記入)

※助手がアンケート用紙とサインペンを参加者に配る

○食事会(15:10~16:00) ※ローディング

スーク・シラーハ通りと6つの歴史的建築物		
スーク・シラーハ通り Souq al-Silah		マムルーク朝（1250～1517年）およびオスマン朝（1517～1805年）の建造物が残る通り。その意味は武器市場通りで、商館の遺構も多い。
マンジャク宮殿（邸宅） Palace of Manjak Silahdar		1346年建設の武将マンジャクの邸宅の門。彼の職位は武器司だったので、ファサードのスパンドレルには刀の紋章が浮き彫りにされる。
公衆浴場（ハンマーム） Hammam (Amir) Bashtak		1341年武将バシュタークが建設した公衆浴場入口が残る。背後にはオスマン朝期の、伝統的な風呂建築が荒廃した遺構の状態に残る。
サビール・クッターブ （イルゲイ・ユーズフィーモスク附設） Sabil Kuttat attached Mosque of Ilgay Yusufi		1373年武将イルゲイが建設したマドラサ（イスラーム法学院）に付設されたサビール・クッターブ（給水所・寺子屋）。通りの角に位置している。
サビール・クッターブ・シナン・パシャ （ウィカーラに附設） Sabil Kuttat Mustafa Sinan attached Wikala		1630年に商館（ウィカーラ）に付属する形で建設され、現在1階の給水所とその脇の街区門が残る。2階には寺子屋（クッターブ）があった。
サビール・クッターブ・ルカイヤ・ドウドウ Sabil Kuttat Ruqayya Dudu		1761年に若くして亡くなった娘ルカイヤのために母が建設した美しい給水所・寺子屋。カーブを描くファサードと上階の軒の形が特徴的である。
サビール・クッターブ・ハサン・アガー・コーカリアーン Sabil Kuttat Hasan Agha Kokalian		1694年にコーカリアーンが建設したもので、本来は商館、邸宅（一部はバイトヤカン）と同時に建設された。角部にたつ典型的サビール・クッターブ。

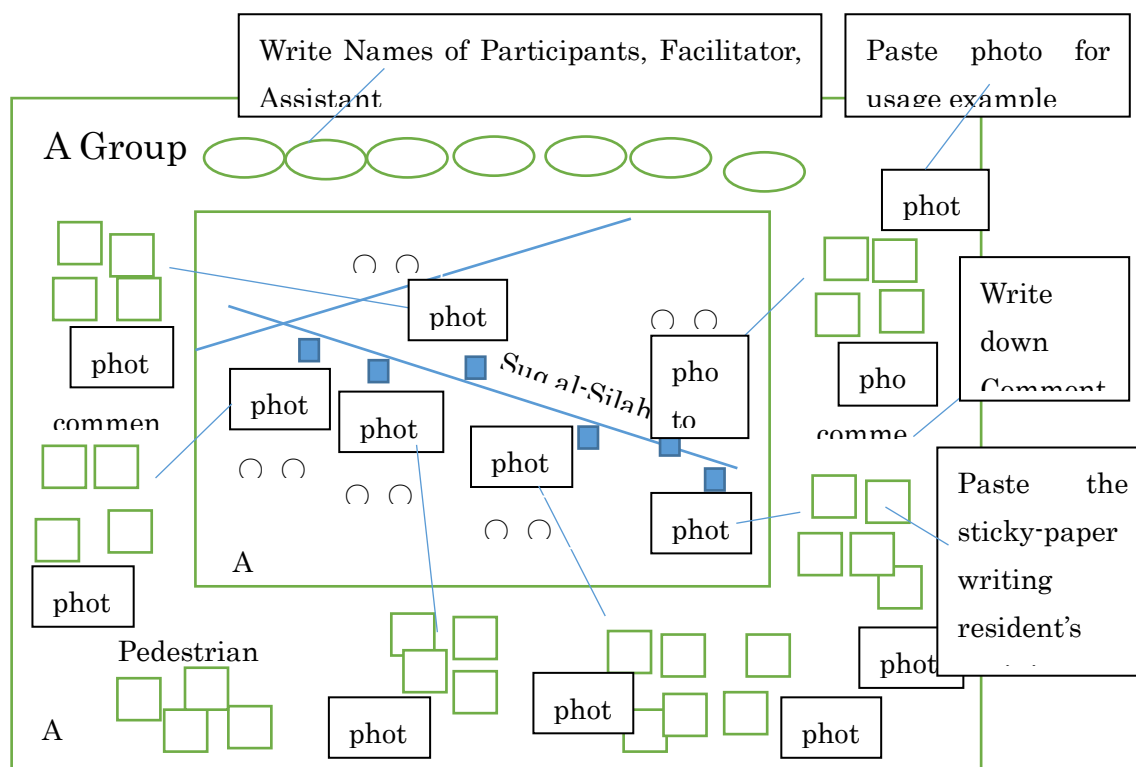
・ マップ、台紙準備の打合図

【スーク・シラーハ通りと 6 建物マップ】



【台紙準備の打合図】

■ Basic Paper (Results)



② 住民参加、日本の事例紹介

連健夫、JCAABE 代表理事

住民参加のまちづくりの事例です。住民参加のまちづくりの良さは、「住民が街の良い点と問題点を考える」「良い点を活かし、問題点を改善する提案ができる」「それを専門家と共に実行する」「自分の街を大切にしている気持ちが生まれる」、日本では都市計画法に住民参加が位置づけられています。これは赤坂通りまちづくりの会の街歩き、良い点を問題点を考えるワークショップです。

街の良い点と問題点を見つけます。



会場に戻り、グループに分かれて話し合い、提案をまとめて、発表、共有します。

提案の実践です。落書き消しワークショップ、お花植え。

提案の実践 Practice of the suggestions



落書き消しワークショップ
Graffiti erasing workshop



お花植え
flower planting

道路の更新案作成 Create renovation plan for the street



BEFORE



AFTER

通りのリノベーションのデザイン案を考えました。

次は、建築設計における利用者参加の事例です。これは、隠岐の島海士町の農林水産物加工施設です。

隠岐の島は日本のこの辺りにあります。既存の建物が手狭で、増築をしたプロジェクトです。ハーブティーやクッションなどが手作り特産物として作られています。



建築設計における利用者参加の事例
(隠岐の島、海士町、農林水産物加工施設)
A case study of user participation in Architectural
Design. Ama-cho, Oki Island. Agricultural and Marine
Products Processing Facility



メンバー
(利用者)
で新しい建物に
ついて話し合う
Discuss about
new building
By the user



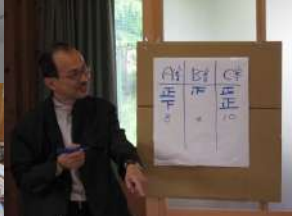
夢をコラージュ
で表現
Express dreams
By collage

コンセプト: Concept
手作りや交流を楽しみ、夢と希望が感じられる場
Place for enjoy handmade and communication
To feel dream and hope
→人を迎え入れる建物
Architecture that welcomes people

メンバーである利用者で、新しい建物について話し合い、夢のコラージュを作りました。そこから、コンセプトは、手作りと交流を楽しみ、夢と希望が感じられる場、人を迎える建物としました。3つのコンセプト模型をつくり、投票で選びました。



3つのコンセプトモデルを創り、投票で選ぶ
Create three concept models and vote on them



皆で床のタイルのデザインを考え、陶芸家に作ってもらおう
Design for floor tiles, all together
Ceramic artist make them



皆でタイルのデザインを考え、陶芸家に作ってもらいました。施工も利用者が参加しました。塗装やウッドデッキ作りです。



施工での参加
Participation in construction



完成！
Completion

完成です。

手作り特産品のショーケースができ、使いやすい建物になりました。

手作りのショーケース
Show-case for hand made products



使いやすいスペース
User friendly space



以前は、建築設計やまちづくりは、専門家だけで行っていました。
In the past, architectural design and town planning were done only by architects, as specialists.

まちづくり←住民が参加、

Town Planning ← Citizen Participation

建築設計←利用者が参加

Architectural Design ← User Participation

住みやすい街、使いやすい建築になります。

Create livable town and user-friendly architecture

皆さん、本日の住民参加のワークショップ楽しんでください！
Please enjoy citizen participation workshop today!

以前は建築設計やまちづくりは専門家が行っていました。そこに、住民や利用者が参加することによって、住みやすい街、使いやすい建築ができるわけです。皆さん、本日の住民参加のワークショップ是非、楽しんでください。

③ 更新案の思い（サラ・ザキー）

1月8日女性住民に向けてのスピーチ

今日は、参加させていただき、有難うございます。エジプト以外の外国、インドもアメリカでも似たような住民参加のまちづくりのワークショップという事例があります。今回の場合と異なるところは、多くの場合すでに事業が決定して住民の意見を集めるためにワークショップを開催します。今回の場合は、住民の意見を集めて、政府の責任者に実際の行動を起こしてもらおうと目論んでいます。ですので、今日はスークシラーハに住んでいる人たちから意見を聞きたいと思います。

私はスーク・シラーハとバーブ・ワズィールで、何年も仕事をしてきました。この写真は中国のものなのですが、この写真に似たような、歩行者道路という事例をスーク・シラーハでも試してみたいと思います。実現は難しいかもしれませんが、期待しています。上の写真は中国のマカオですが、マカオも歴史的な街でスーク・シラーハに似ています。マカオではこの道を歩行者専用道路にして、人々が好む店、レストラン、喫茶店などゆっくり座ることができる店を用意しました。あなたがたの住んでいるスーク・シラーハには、ゆっくりする場所がありますか？歩行者道路にしたほうが良いでしょうか？

右の写真はモロッコのマラケシュの写真で、ここも歩行者道路にしてあるのですが、スーク・シラーハよりも狭い道で、古い道ではなく新しい道です。

その横もモロッコのスークで天井が付いている歩行者専用道路です。外国人はこのような道が好きで、混み合っていて狭い道でも、車がいなければゆっくりと買い物をします。

右の写真はシンガポールですが、中国にも似たような場所があります。このエリアは観光客用のエリアで、住民も好んで散歩します。アーケードがある場所、カイロにもアーケードがある場所がありますね。ムハンマド・アリー通りのアーケードがそうですが、両側通行で交通事故がおこりやすいです。シンガポールの写真をよく見るとアーケードだけでなく路面も白と黒で工夫が凝らされています。

シンガポールで、街の道路改良のミーティングに国際建築家連盟の一人として参加しました。今日と同様に建築家と住民を集めて、道を改良するためにみんなの意見を聞くというミーティングでした。しかし、私



のようなエジプト人の建築家の意見までも聞きたいという点は素晴らしいと思います。建築家だけでなく、住民も参加していたので、今回のミーティングに似ていると思うとともに、嬉しいです。

右の絵は、エジプト人がマウリドのお祝いにどのような活動をするのか、伝統的な踊りや屋台などを表している絵です。カイロには、人々の集まる道路の空間がありました。

右下の写真はトルコのコシヤの街です。この写真を見るとカイロの家と似てますね。この建物は300から400年前の建物ですが、住民がとても綺麗にしているので、観光客に好まれます。カイロにも同じような古い家がありますが、綺麗に整えられていません。

皆さんに聞きたいのですが、あなたの家は修復しなくても大丈夫ですか？家は綺麗に保存されてますか？階段やトイレはどうですか？

スーク・シラーハ通りが歩行者道路になって欲しいですか？賛成している人、反対している人もいるでしょう。トゥクトゥクやタクシーが必要な人もいますでしょう。

(会場から→ほとんどみんなが賛成しています。)

このスーク・シラーハ全部でたった250mだから、それほど長い道路ではないので、車が入れなくても並行するバーブ・ワズィール通りに車を通せます。歩行者道路にすれば、ゆっくりと外国人も色々な歴史的建築を見学できます。

(会場から→プロジェクトが道を綺麗にするよりは、住民自身が綺麗にすれば、きっと長持ちします。)

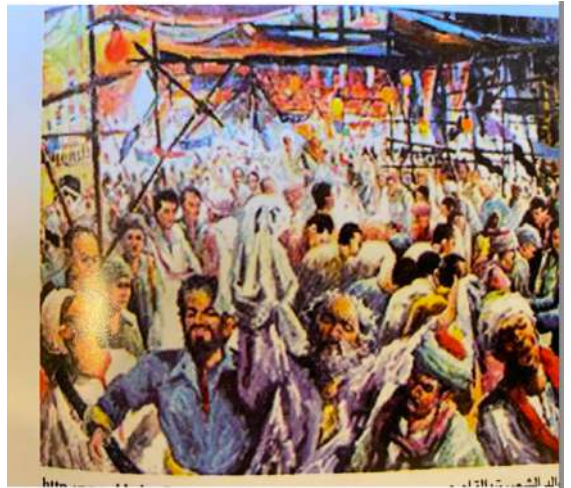
その通りです。バーブ・ワズィールのプロジェクトでは住民にゴミを拾ってもらいました。あなたのおっしゃることは正しいです。みんなで頑張りましょう。

1月9日 男性住民に向けてのスピーチ

スーク・シラーハとバーブ・ワズィールの間で我々がやったことについてお話しします。地図をあげましたが、左端がスーク・シラーハの通りで、右端がバーブ・ワズィール通りです。

次のページの最初の写真のように、建物の状態はあんまり良くなかったです。環境があまり良くなく、壁が弱く、壊れていました。今にも壊れそうなものもありました。それで我々は色々手を施して壁の修復をしました。周りには伝統的な場所もあり、我々はそれらを元に戻したいと思い修復しました。ここ一帯は、200年前から100年前にはとても良好な住宅地で重要な場所でした。そして、多種多様な人々が住んでいました。木工職人や大工、手作り職人も多かったのです。

しかし残念ながら、状況が悪化してきて、街はあまり良くなくなってしまいました。しかし、我々は様々な修理、例えば建物に

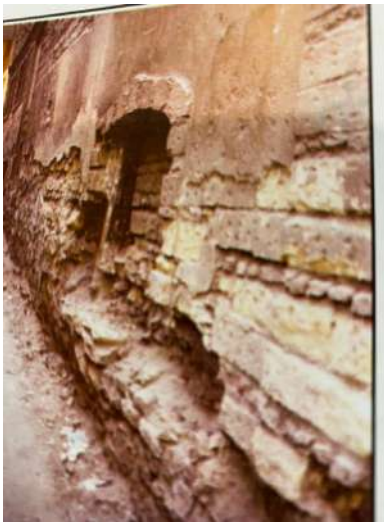


ペンキで塗って、小さな台所も作って、住民が望んでいる改修を行いました。住民と協力し、住民も修復作業に参加していただきました。これはすごく良い協力関係でした。

このプロジェクトはバーブ・ワズィールと言う通りにある有名なアメリカン・リサーチ・センターが中心になって行い、この通りの修復はその研究所から費用を頂きました。住民と我々も一緒に協力して作業を行いました。

一番下左の写真はゼイナブ・スッカルの家です。ご覧になっている黒い所はすごく壊されていたところで、住民と協力して直しました。活動全てに住民が参加しています。今日は、このワークショップに参加している皆さんからご意見を聞きたいと思います。そして将来一緒に協力して我々、そして皆さんの夢を叶えられるように努力したいと思います。

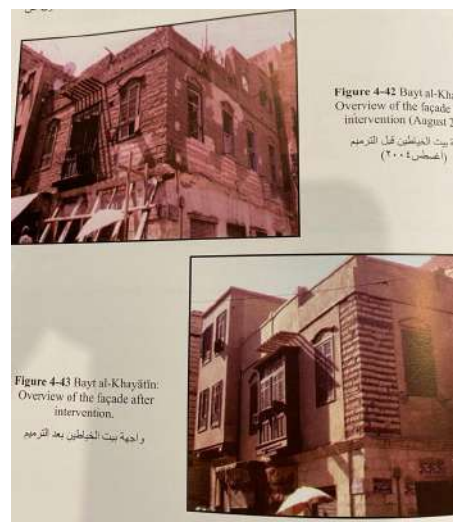
スーク・シラーハはご存知の通り、ひどい渋滞があり、環境が悪くなってしまいました。でもこれからみんなで協力して改善することによって、経済も活性化し、歩行者にとっても歩きやすい道になります。改善することが大事だと思います。日本の専門家の皆さんは協力してくださっています。我々みんなで協力してエジプト政府に手紙を出し、我々住民と一緒に協力して地域を改善する提案をしたいと思います。みんなで努力して夢を叶えたいと思います。



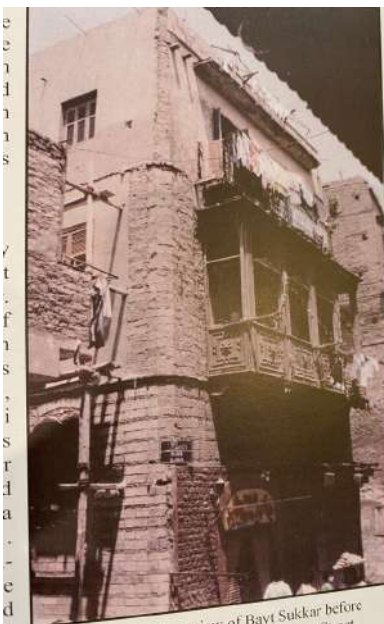
いたんだ基礎



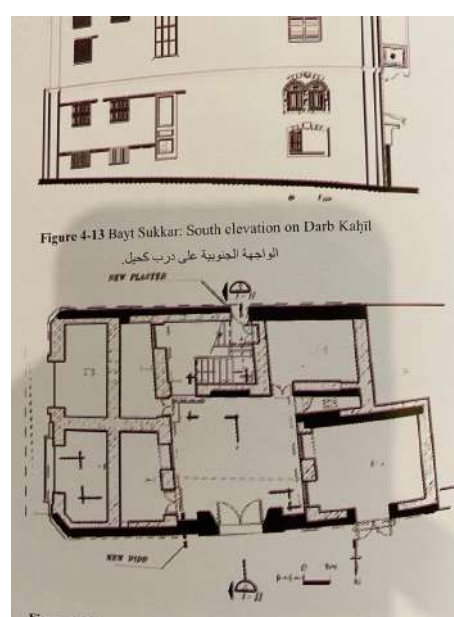
ガンドウールの家



ハヤーティンの家



ゼイナブ・スッカルの家 修理前



1階平面図

・更新案の思い（アラー・ハブシー）8日、9日

皆さん有難う。私たちのバイトヤカンプロジェクトは皆さんのおかげでうまくいきました。スークシラーハの住民を使って歴史的住宅再活用の実験をしたような形となりますが、あなたたちがいなければ、バイトヤカンではなかったでしょう。

日本の60年前には、東京近郊にも京都にもスーク・シラーハのような古い通りがありました。スーク・シラーハの方が古いですが、日本の歴史的な通りの60年前は、とてもひどい状態でしたが再生しました。このケースから私たちは学ことができます。

日本は60年前に発展計画を立てるとき、住民参加をしないといけないことに早く気づきました。住民が計画に参加しないと、途中で反対する、あるいはプロジェクトが終わったのちに、それをサポートしないということがおこってしまいます。ですから、私たちもバイトヤカンを発展させるために、ワークショップを開いて住民に参加してもらっています。特に女性の皆さまには感謝をあらわしたいです。なぜなら、彼女たちのおかげで私たちのアイデアや考えていることを、家族内の子供やご主人に伝えることができました。女性だけに参加せると言われぬように、9日には男性の時間を作りますので、男女みんなが参加したことになります。

サラーさんも私も日本人も、自分の意見を伝えますが、私たちの考えていることはあなたたちの意見と合うのか知りたいです。

今日の私のタイトルは「我々の夢」です。アラーの夢でもなく、・・・みんなの夢です。この夢のために日本人専門家と協力し、エジプト政府の国際機関とも協力して、この夢を叶えたいと思います。

このバイト・ヤカンは2009年に購入して以来、色々な努力がありました。2階には近い将来、図書館がオープンし、カイロの歴史に関する本が置かれます。この家は、ムハンマド・アリーが娘とその夫ヤカン氏にプレゼントした家でした。ヤカンがサウジの戦いから帰った時です。この周辺には一連の邸宅がありましたが、この中庭周りだけが残し、そしてアフマド・サードのおばあさんの所有になりました。アフマドの奥さんはいらっしゃいますか？実は彼女に色々サポートしてもらいました。アフマドは、この近くで肉屋を営む人です。アフマドがこの家を持っていたことは幸運でした。彼は私がバイト・ラッザーズを修復したことをよく知っていて、「ここに2つのアパートを建設予定なのですが、アラーさんに買ってもらえないですか」と私に尋ねたのです。もしも高いアパートが建っていたら空気、太陽を遮っただけでなく電波も悪くなったはずでしょう。

2009年から今までのバイトヤカンの修復の変化を見るとだいぶ変わったでしょう。頑張ればできると思われることでしょう。この家の修復自体は私の家族の努力でできたものですが、今バイトヤカンには私たちたくさんの家族がいますので、これからもっと素晴らしいことができるでしょう。ここの中庭や門は社会のものです。オーナーのものだけでなく、社会、みんなの所有物だと思って、みんなで大切に使うことが社会的役割になると思います。



このような歴史的な場所は再度活かして保存し、社会のみんなで使いたいと思います。バイトヤカンを修復しているときに、深見さんが私に言った言葉で忘れないのは、「コミュニティはこの家の命となる」と言う言葉でした。そして、日本でも大きな家のホールを一つの家族のものではなく、社会みんなのものにしていることを教えてくださいました。サラーさんも言ったように道も狭くて、通りにはゆっくりできる場所がないので、こういう場所が必要です。特に女性にはそういう空間がありません。男性たちには喫茶店がありますが、つまり、あなた方がいなければこの家には命はありませんでした。2016 年からここでは少しずつワークショップを始めました。

もう一つの目的は、場所の記憶を守ることです。ものを壊してしまうと、記憶から思い出がなくなってしまいます。夏用の映画館を覚えてますか？近くのシェイク・アブドゥル・ラーマン・コッラの家が取り壊された時に、その家の門の石を集めてきました。彼はシェイク・ムハンマド・アブドの学生の 1 人で、アズハルのムフティーの一人という偉人だったのに、彼の家を壊してしまったのです。私たちは保存しようとしたしましたが、無力で、残骸の 53 個の石を集めてここに運び、このアーチを復元しました。

地元のコミュニティのメンバーは、この門が取り壊されていることをすぐに教えてくださいました。運んだ石を前に、門が最初に建てられた真の比率を見つけるのに苦労しながら、中庭で再構成しました。

すると、その比率は設計に潜む黄金比であることがわかりました。それは、再建の経験によって、遺産には発見されなければならない教訓があることを示しています。そして、これらの価値をコミュニティや家への訪問者に説明するために、ゲートの隣に設置したガイドボードに由緒を刻みました。

タッパーナ通りの家が壊されて記憶の命を失いましたが、ここで再び命を得たのです。

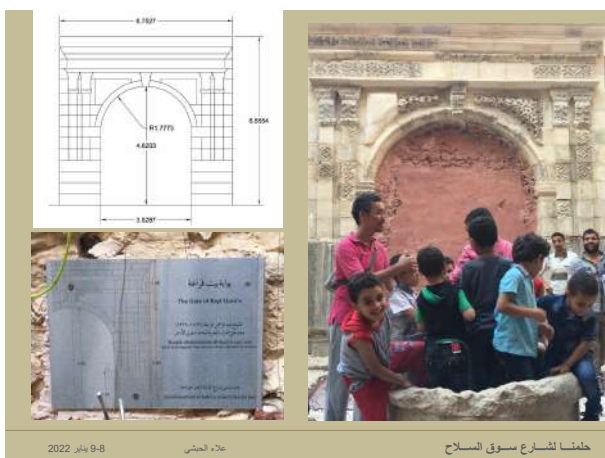
この門をひらけばその後ろには何があるでしょう？木工職人の工房にしました。つまり、その門に命を授けたというよりは、スークシラーハの住民に経済的な命を与えるという扉を開いたのです。この工房は日本大使館のサポートでできました。これから色々な希望の扉を開こうと思っています。



2022 9-8

علاء الحنبلي

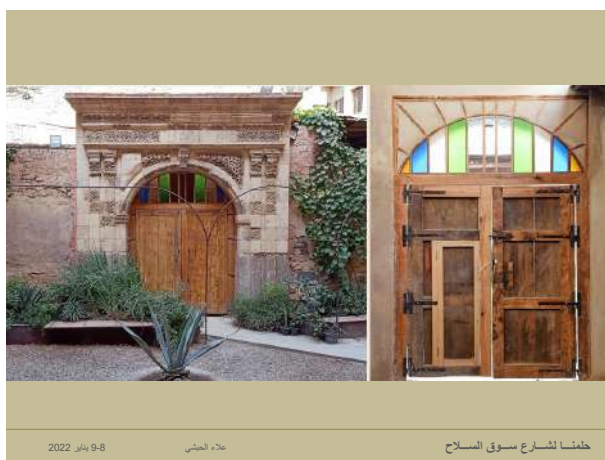
حلمنا لشارع سوق السلاح



2022 9-8

علاء الحنبلي

حلمنا لشارع سوق السلاح



2022 9-8

علاء الحنبلي

حلمنا لشارع سوق السلاح



2022 9-8

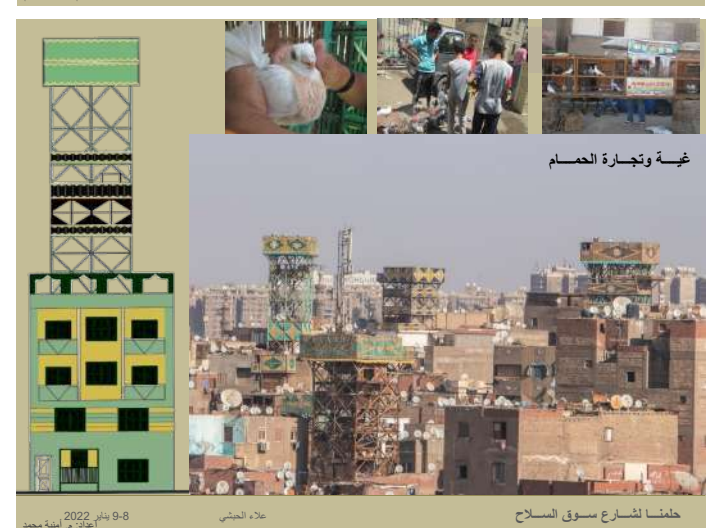
علاء الحنبلي

حلمنا لشارع سوق السلاح

もう一つの昔の思い出はスズメです。扉のところにスズメがいたでしょう。前はスズメの声が聞こえなかったのは、緑がなかったからです。環境というのは、人間だけではなくて、人間と自然が混ざった状況であるということから、緑を作る必要があるとかがえて庭園を作りました。この庭を作ったときにオランダ人をお願いして作りました。ヘルシーなハーブを選んでくれたので、バイトヤカンのお茶を作ることができました。美味しいものを作ることも、売ることもできるでしょう。これを見て、みんなも家の中に緑を作ったらどうでしょう。みんなで行えば、きっと街が緑でいっぱいになるでしょう。

さらにもう一つできたことは、この家を0エネルギーにしたことです。太陽光のソーラーパネルを屋上に並べました。皆さん、この頃の悩みは電気代でしょう。電気の集金が来ると気分が悪くなるのじゃないですか？家計の節約のためにこのアイデアを広めたいと思いませんか？私の場合、産業省に連絡して、自分のお金も使いましたが、省も手伝ってくれました。それにパネルが設置できない皆さんの電気料金を削減するために、余った電気を近隣に提供すれば、より皆さんとのつながりを強化することができます。

バイトヤカンでは10年くらい仕事をしましたが、実は私とサラーさんはこの地域で長く仕事をしていて、ちょうど仕事が始まったのは、20代の方が生まれた頃です。私たちの夢は、創造できる価値に基づくわけですが、私たちは今どんな価値を持っているのでしょうか？さきほどの連さんの発表の時に、ハーブティーや陶器を作る例がありました。私たちは何ができるのでしょうか？私たちにあるのは歴史的建築と鳩？鳩は環境にはあまり好ましくないのですが、何か考えられるかもしれません。経済的に役立つ方法を見つければ、地域はますます良くなるでしょう。エジプトでは昔から鳩を有効に使っていて、トレーニングだけではなく、伝統的で有名な食べ物にも使います。エジプトで昔からやられている様々な方法や手段は残念ながらなくなってしまったものも多いのですが、それらを復活させるなど、歴史を生かしたアイデンティティを保存したいと思っています。我々はアイデンティティを確立し、それを守ることによって、観光客がもっとたくさん来てくれるのではないかと思います。



もう一つの価値を考えるとマウリド（聖者誕生祭）やウスブーア（生まれたて1週間目）のお祝いがあるでしょう。皆さんの生活が歴史的カイロの住民文化に根ざしていることをワークショップで確認し、バイトヤカンの中庭空間をこうしたお祭りに使っていただくことにしました。赤ちゃんが新しいメンバーとして加わったことをみんなに示すことは、赤ちゃんの未来がコミュニティと結びついたことになり、よりコミュニティを強化できるのです。

地域の子供たちや若者のワークショップは、彼らの意識を高めるだけでなく、彼らが未来にとって最高の保存を推進する者となるのです。昔の美しさを学び、その価値について考えます。そして彼らの中で才能のある人たちは、ますます上達していきます。昔の良き日々は終わったという考え方は、彼らのように学ぶ若者がいて、未来の世代が育っていると感じる時、誤った認識だと気づかされます。

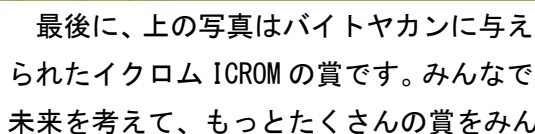
カイロならではの建築的・構造的特徴に14世紀のウンム・スルタン・シャアバンのために木製の格子細工があり、優れたデザインと精度が見られます。工房で作成されたコミュニティのデザインが、スーク・シラーハにはあったのです。伝統的な大工もたくさんいます。とても素晴らしいもので価値の高いものだと思います。それらは経済の成長にも影響すると思います、伝統的な大工を活かして経済を活性化することも考えています。

しかし、この頃では需要不足、若い人の職人離れなどから先ぼそりの状況で、職人は数名の名人に限定されてしまいました。一方で、伝統的な工芸品においても、もう少し現代的な歩み寄りが必要です。高い技術を記録、保持することも重要ですが、新たなデザインとの共同、製品の性格による機械の使用、若い技術者の要請など、バイト・ヤカンのアーチの向こうで進みつつある工芸センターは、そこを目指しています。それに先立って国際交流基金の援助で、日本の木工職人とここスーク・シラーハで1週間にわたるワークショップを開催しました。

次頁上図はスーク・シラーハ近傍の木工職人の工房の分布図です。ダルブ・アフマルの木工職人組合



ムスタファ・シナン、ルカイヤ・ドゥドゥ、コーカリヤン、去年や一昨年にこうしたサビール・クッターブはとても綺麗に修復されました。でも鍵が閉まっています。私たちがしまっているサビールを使いたいと、行政側に話せばどうなるでしょうか？どのように使いたいのですか？例えば木工職人の組合、木工博物館、工芸の学校、そして最後に最初のマンジャク門を展覧会として使えばどうでしょうか？

[illegible]

④住民の意見

住民ワークショップでの参加者の意見（各グループでの台紙コメントから）

○スーク・シラーハ通り、全体に関わるもの

各グループ共、通りの両側の建物の修復が必要とのコメントがあり、修復によってスーク・シラーハ通りをオープンミュージアムにして観光客に来てもらいたいなど、賑わいの創出に関する提案があった。歴史ガイドツアーや手芸を教えるワークショップの開催といったプログラムに関するコメントや、庶民的レストラン、手工芸品の直売場を設けるなど生業に関わるコメントも注目される。交通に関してトゥクトゥクなどによる混雑や停車の問題を指摘するコメントやそれを解決するための歩行者専用道路にするといった提案が、男女とも見られた。ゴミ処理業者を雇って通りをきれいにする、など現状の問題解決のためのアイデアも見られた。

○宮殿（邸宅）マンジャク・シラーフダール邸

スーク・シラーハ通りの入口に位置し、観光案内と地域の名所を紹介するセンターが適しているといったコメントが男女ともにあり、また子供向けのオープンシアターや小室の1つを女性の手工芸品のギャラリーといった建築的特徴を活かした提案も見られた。また工芸品を教えるための教室、昔からあった焼き菓子や伝統的な料理が食べられるレストランといったこの地域ならではの提案が注目される。

○公衆浴場、ハンマーム・アミール・バシュターク

男女とも、もともとの用途である公衆浴場としての再利用の要望が多い。女性と男性の利用を曜日や時間によって分ける、観光客についても曜日や時間によって使い分ける、というカスタマイズのアイデアがある。興味深いのは、上階をキッズエリアとして改装し、ハンマームで過ごす間に子供を預けることができるようにするという提案や高齢者のためのサウナと理学療法施設というアイデアもある。またプライバシーの工夫や交通サービスへの要望もあった。

○サビール・クッターブ（イルゲイ・ユーズフィーモスク）

男女ともイスラーム教を教える学校、コーランを学ぶ学校として再利用するという意見が多い。観光施設としてオープンするという意見と共に、現在、モスクは祈るために使われている、病院が併設されており救急関係部屋としても使われているという情報提供もあった。

○サビール・クッターブ・シナン・パシャ（ウィカーラに附設）

男女とも、ゲストハウスやホテルとしての利用や、コーヒーショップを1階に設けるなど観光利用の要望が多くあった。また小さな貿易センターとし、地域でワークショップを開催して製品を売るといった提案もあった。

○サビール・クッターブ・ルカイヤ・ドゥドゥ

男女とも、観光利用として、レストランやカフェといった人が集まる場、といった要望のみならず、もともとの用途を捉え、タキヤすなわち通行人へ水を供給する施設、地域で困窮している人へ食料を提供するセンターとしての利用提案が特筆できる。女性からは、女性のためのホスティングエリアといった意見があった。

○サビール・クッターブ・ハサン・アガー・コーカリアーン

男所とも観光施設として利用、小さな書店を置く、祈りのために開放といった意見があり、これに加え、男性は子供たちに開放するという意見、女性からは高齢者のための文化センター、イスラーム教徒のための結婚施設、識字教室といったアイデアがあった。

住民ワークショップ意見(女性)A グループ台紙	
スーク・シラーハ通り 全 体 に 関 わ る も の Souq al -Silah	・スーク・シラーハを修復し、オープンミュージアムとして観光に利用する。 ・女性や子供に手芸を教えるワークショップを開催する。 ・手工芸品の直売所を開設する。 ・子供向けの小劇場を開き、古代の民話や地域の歴史を紹介する。 ・状態の悪い建物の撤去・解体、既存建物のファサードを地域の歴史的特徴に合うよう再構築する。 ・撤去解体建物の所有者に適切な代替住宅を提供する。 ・ダルブ・アンシア病院に隣接する画家アフメド・ハラワニ家の調査・修復を行う。 ・スーク・シラーハの両側建物を修復して、オープンミュージアムの観光地として再開する。またこの地域の歴史を学べる歴史ガイドツアーを実施する。 ・スーク・シラーハを交通問題のない歩行者専用通路にする。 ・通りの両側に庶民的料理のレストランをオープンさせる。
宮 殿 (邸 宅) マンジャク・シラーフダ ー ル 邸 Palace of Manjak Silahdar	・完全なかたちで再開し、子供たちのための公園への入口として修復する。 ・スーク・シラーハのランドマークとして、昔にはあった焼き菓子や伝統的な食品を販売する小さなレストランをオープンする。 ・小室のひとつには、住民の手工芸品/ハンドメイドの展示を含める。 ・園内には、子供向けのオープンシアターを設ける。 ・観光案内と地域の名所を紹介するセンターとして開設する。
公 衆 浴 場 ハンマーム・アミール・ バ シ ュ タ ー ク Hammam Amir Bashtak	・観光施設や治療場として再オープンし、修復して住民や観光客に利用されること。 ・女性のための美容サロンを開く。 ・直接行ける交通便を提供する。 ・住民(男性・女性)のための利用日、外国人観光客のための利用日を設定する。 ・ポピュラーな浴室として再利用。
サビール・クッターブ イルゲイ・ユーズフィー (モスク附設) Sabil Kuttab attached Mosque of Ilgay Yusufi	・完全なかたちで修復し、イスラーム教を教える学校として再利用する。 ・コーランを覚える家として使用する。 ・観光施設としてオープンする。
サビール・クッターブ・ シナン・パシャ (ウィカ ー ラ に 附 設) Sabil Kuttab Mustafa Sinan attached Wikala	・完全なかたちで修復し、観光施設としてオープンする。 ・ゲストハウスとして使用する。コーヒーショップを1階に設ける。 ・部屋を修復し、ホテルの客室として貸し出す。
サビール・クッターブ・ ル カ イ ヤ ・ドゥドゥ Sabil Kuttab Ruqayya Dudu	・完全なかたちで修復し、観光施設として再利用する。 ・タキエ(イスラーム神秘主義宗教施設)、あるいは通行人へ水を提供する施設として再利用する。 ・地域で困窮している人へ食料を提供するセンターとして利用する。(昔の使われ方の復活)
サビール・クッターブ・ ハサン・アガー・コーカ リアーン Sabil Kuttab Hasan Agha Kokalian	・完全なかたちで修復し、観光施設して再利用する。 ・小さな書店を設ける。 ・高齢者のための文化センターとして利用する。

住民ワークショップ意見(女性)B 台紙	
スーク・シラーハ通り 全 体 に 関 わ る も の Souq al-Silah	・今のストリートの様子を見て、恥ずかしくなることもある。 ・私の息子は、車のせいで路上で事故にあった。 ・私の家のオーナーは、高層ビルを建てるために、私の家族を追いつけたがっている(彼らは月 4 エジプトポンドで部屋を借りている)。 ・犬や羊のような動物が通りを行き交い、私や家族を悩ませている。 ・学校はとても混雑している。 ・私は書くことも読むこともできません (20 歳女性) ・スポーツクラブ、体育館 ・芸術的才能の開発センター ・母親たちに家庭でできるリサイクルの方法を教える(女性ワークショップ) ・ゴミ問題を解決する ・スーク・シラーハで電気自動車を使用する
宮 殿 (邸 宅) マンジャク・シラーフダール邸 Palace of Manjak Silahdar	・再開と開発、門の手入れをする。 ・ゲートの入口を歴史情報センターにし、スーク・シラーハ地区への案内をする。 ・スーク・シラーハのベストスポットの紹介とそれに関する情報を案内する地図を配布する。 ・バザールとしてスーク・シラーハの住民が作ったアラベスクや手工芸品などの製品を展示するコーナーを作る。 ・観光名所として利用する。 ・屋根があると、リファーイー・モスクとスルタン・ハサン・マドラサの絶好の眺めが楽しめるストランになる
公 衆 浴 場 ハンマーム・アミール・バシシュターク Hammam Amir Bashtak	・一般的なハンマームとして再開する。 ・女性のための日と男性のための日を設定する。 ・上階をキッズエリアに改築し、ハンマームで過ごすまで子供を預けることができるようにする。 ・高齢者のためのサウナと理学療法がのぞまれる。
サビール・クッターブ イルゲイ・ユーズフィー(モスク附設) Sabil Kuttab attached Mosque of Ilgay Yusufi	・モスクは今も礼拝するために使われている。 ・男性と子供のためのコーランとイスラーム教のクラスを追加する ・ハラムリク(禁制の場所)として、女性のためのイスラーム学校にし、子供と一緒に学べるようにする。
サビール・クッターブ・シナン・パシャ(ウィカーラに附設) Sabil Kuttab Mustafa Sinan attached Wikala	・小さな貿易センターとしてウィカーラを再開し、同じ地域でワークショップを開催し、その製品を展示する。
サビール・クッターブ・ルカイヤ・ドウドウ Sabil Kuttab Ruqayya Dudu	・女性のためのホスティングエリアとして開発する。 ・小さなレストランとカフェテリアを備えたエンターテインメントエリアとして、女性が楽しく過ごすために集まる場所とする。男性はサッカーを見ながら集まるアフワ(伝統的喫茶店)がありますが、私たちには自由によれる場所がない。 ・女性の名前なので、同じ名前にする。
サビール・クッターブ・ハサン・アガー・コーカリアン Sabil Kuttab Hasan Agha Kokalian	・礼拝のために再開する。 ・子供のための特別なエリアを持つ大きな図書館を持つ。 ・イスラーム教徒の結婚の儀式のための場所とする(كتب الكتاب). ・識字のためのクラスを持つ。

住民ワークショップ意見(男性)A 台紙	
スーク・シラーハ通り 全体に関わるもの Souq al-Silah	・スーク・シラーハ をオープンミュージアムとして修復・再利用し、観光客にアピールする。 ・女性や子供に手芸を教えるワークショップや手芸教室を開設。 ・手工芸品の直売所を開設する。 ・古い民話を語り、地域の歴史や芸術の発展を紹介する子供向けの小劇場の開設。 ・ファティマ・ナバウィヤ病院近くのラミーの土地のように、状態の悪い建物の撤去と取り壊し、既存の建物のファサードを地域の歴史的特徴に合うように作り直す。 ・行動とモラルの啓蒙。芸術と才能の促進。 ・ダルブ・アンシア病院に隣接する俳優 アフメド・ハラワニの家の調査と修復。 ・通りの両側の建物を修復し、オープンミュージアムとして観光地として再開、歴史認識ツアーを実施し、人々にこの地域の歴史について教育している。 ・通りを交通のない歩行者専用通路とし、トゥクトゥクを通りおよびすべてのエリアから排除する。 ・住民のための地下車庫を開設する。
宮 殿 (邸 宅) マンジャク・シラーフ ダール邸 Palace of Manjak Silahdar	・住民の手工芸品を展示する公募展の入口として門を使用し、全体のエリアを完全に再開・復元する。 ・工芸品を教えるための小さな学校を開校。 ・小室の1つは、女性の手工芸品/ハンドメイドのための展示会を含むことが良い。 ・観光案内と地域の名所を紹介するセンターを開設する。
公 衆 浴 場 ハンマーム・アミール・バシュターク Hammam Amir Bashtak	・再オープンして修復し、観光地や治療場として住民や観光客が利用する。 ・美容室、女性用朝風呂、男性用夜風呂としてオープンする。 ・ハントゥール(馬車)のような直通の交通手段を提供する。 ・居住者向け(男性夜間、女性夜間)、外国人観光客向け(曜日)のカスタマイズが可能である。 ・人気のあるトイレとして再利用
サビール・クッターブ イルゲイ・ユーズフィー (モスクに附設) Sabil Kuttat attached Mosque of Ilgay Yusufi	・完全修復し、イスラーム教の教科を教える学校として再利用。 ・クルアーンの暗記室として使用。 ・観光地としてオープン
サビール・クッターブ・ シナン・パシャ (ウィ カーラに附設) Sabil Kuttat Mustafa Sinan attached Wikala	・完全に修復され再利用され、観光地としてオープンしたい。
サビール・クッターブ・ ルカイヤ・ドウドウ Sabil Kuttat Ruqayya Dudu	・完全な復元と再利用を行い、観光地としてオープンしたい。 ・タキエ(イスラーム神秘主義宗教施設)として再利用 以前は通行人の水補給のために利用されていた。 ・地域の貧しい人々に食料を提供するセンターとして利用する。そして以前のように給水場としても使用する
サビール・クッターブ・ ハサン・アガー・コー カリアン	・完全に修復して再利用し、観光地としてオープン。 ・小さな書店を併設。

住民ワークショップ意見(男性)B 台紙	
スーク・シラーハ通り 全 体 に 関 わ る も の Souq al-Silah	・以前のように、観光客が再びこの通りに来てくれることが必要だ。 ・この地域でトゥクトゥクを使用するのは止めたい、なぜなら多くの事故が生じたからだ。 ・高層ビルが立ち並び、日当たりも悪く、空気も悪い。 ・子供たちは地域の重要性を理解できないので、地域をきれいに保とうとはしないが、私たち大人は地域を保つ意識を持つべきだ。 ・この地域にあるマカーム(墓廟)を撤去して、ザウア(小モスク)を広げる。 ・ゴミ処理業者を雇い、通りをきれいにする。 ・適当な木を植えて欲しい。 ・スーク・シラーハを朝の時間帯は車を入れない人間専用の場所にし、夜間は工房の資材のためにだけ車の進入を許可する。 ・ハーラ(路地)やズカック(袋小路)に入るには、小さい救急車が必要。 ・消防署が近くにあること。
宮 殿 (邸 宅) マンジャク・シラーフダール邸 Palace of Manjak Silahdar	・再開発とゲートのケア。 ・ゲートの入り口を、スーク・シラーハ地区への案内をする歴史情報センターとする。 ・スーク・シラーハ地区で最も良い場所とその情報を案内する地図を配布し、各場所にその情報を提供する看板を追加する。 ・観光名所として活用する。 ・リファイー・モスクとスルタン・ハサン・マドラサへの完璧な眺望のあるホテルとする
公 衆 浴 場 ハンマーム・アミール・バシシュターク Hammam Amir Bashtak	・公共のハンマームとして再オープンする。 ・女性のための日と男性のための日があります。 ・ハンマームの完全なプライバシーを確保するための警備をつける。
サビール・クッターブ イルゲイ・ユーズフィー(モスク附設) Sabil Kuttatb attached Mosque of Ilgay Yusufi	・モスクはすでに祈るために使われている。 ・小さな病院(クリニック)を併設し、救急部門が欲しい。
サビール・クッターブ・シナン・パシャ(ウィカーラに附設) Sabil Kuttatb Mustafa Sinan attached Wikala	・地下にあるワークショップ(工房)を同じ場所に集めるため、ウィカーラを再開する。
サビール・クッターブ・ルカイヤ・ドウドウ Sabil Kuttatb Ruqayya Dudu	・図書館。 ・イスラーム教センター
サビール・クッターブ・ハサン・アガー・コーカリアン Sabil Kuttatb Hasan Agha Kokalian	・祈りのために開放する。 ・クッターブを子供たちのために開放する。

⑤ アンケート結果

住民ワークショップ、アンケート結果のまとめ

1日目の女性の参加者は21名、24歳～72歳、平均で44歳、様々な年層の参加者で、在住期間については短い方で6年、長い方で53年、平均で30年である。職業をみると、約半分が専業主婦である。職業の種類としては、秘書、教師、報道担当者、シェフ、テレビ局局長、心理学教師など様々である。ワークショップの評価については全員が良かったと応えている。興味のある建物について一番多いのは、ハンマーム・アミール・バシュターク、2番目がサビール・ルカイヤ・ドウドウで、いずれも約8割の参加者が興味を持っている。3番目が、サビール・クッターブ・ハサン・アガー・コーカリアーンで、4番目が宮殿、マンジャク・シラーフダール邸であり、約半分の参加者が興味を持っていることが分かる。

自由記入において、女性専用ハンマーム、美容院、女性専用クラブ、女性のためのジムなど、女性に関わる利用内容が多いのが特徴である。観光関係においては案内所や観光客用の電気自動車、教育関係では、図書館、保育園、コーラン学校、無学者向けの学校、日本語学校、子供のためのクラフトクラス、芸術活動などがあげられている。また、多目的ホールといったコミュニティのための用途もあげられているのが注目できる。交通関係として、トゥクトゥクを無くして代わりにバスを多くしてほしい、など現状の問題点の解決案もあげられていた。

2日目の男性の参加者は15名、33歳～64歳、平均で44.7歳と女性とほぼ同様である。在住期間は、短い方で9年、長い方で64年、平均では40年であり、女性よりも在住期間が長い人たちが参加していた。職業については、店のオーナーなど商売に関わっている人が6名と約3分の1を占めている。その他、俳優、経理、新聞記者、運転手、弁護士、会計士など様々である。ワークショップの評価については、ほぼ全員が良かったと応えている。興味ある建物について、一番多いのは、ハンマーム・アミール・バシュタークで約8割の参加が興味を持っており、これは女性と同様である。他建物については特に差はなく3分の2の参加者が興味を持っていると応えている。

自由記入においては、文芸技術の学校、研修者の手作り製品の販売店といった具体的用途のコメントや道徳を教えることなどモラルや教育に関わるコメント、ゴミ会社と契約を結ぶ、トゥクトゥクや車が入らないようにするなど現状の問題解決の提案など興味深いコメントが書かれていた。

(6) استبيان ورشة عمل المقيمين

الاسم: محمد
العمر: ٣٣ سنة
محل الإقامة: ١٢ شارع النيل
سنوات الإقامة: ٣٠ سنة
العمل: بائع
محل العمل: المحلة القديمة

1. ما رأيك في ورشة عمل اليوم؟ (جيد، متوسط، ليس جيداً)

2. ما المياني التي تهتم بها؟ الرجاء وضع علامة.

أ. محل كتاب مسجد الحادي القوي ✓
ب. محل كتاب وكالة سالي سالي ✓
ج. محل كتاب رفقة نوري ✓
د. محل كتاب حسن أبا كركيل ✓
هـ. محلات شتاك ✓
و. محلات سجاد سجاد ✓

من فضلك لا تتردد في كتابة تعليقاتكم واقتراحاتكم.

أ. المصطفى المدهون
ب. نكتة في الحرب الأهلية

(A) Group (6) استبيان ورشة عمل المقيمين

الاسم: محمد
العمر: ٣٠ سنة
محل الإقامة: ١٢ شارع النيل
سنوات الإقامة: ٣٠ سنة
العمل: بائع
محل العمل: المحلة القديمة

1. ما رأيك في ورشة عمل اليوم؟ (جيد، متوسط، ليس جيداً)

2. ما المياني التي تهتم بها؟ الرجاء وضع علامة.

أ. محل كتاب مسجد الحادي القوي ✓
ب. محل كتاب وكالة سالي سالي ✓
ج. محل كتاب رفقة نوري ✓
د. محل كتاب حسن أبا كركيل ✓
هـ. محلات شتاك ✓
و. محلات سجاد سجاد ✓

من فضلك لا تتردد في كتابة تعليقاتكم واقتراحاتكم.

أ. رجاء لاستفادة من هذه الموانع
ب. المأهولة وعدم تركها مغلقة

(7) استبيان ورشة عمل المقيمين

الاسم: محمد
العمر: ٣٠ سنة
محل الإقامة: ١٢ شارع النيل
سنوات الإقامة: ٣٠ سنة
العمل: بائع
محل العمل: المحلة القديمة

1. ما رأيك في ورشة عمل اليوم؟ (جيد، متوسط، ليس جيداً)

2. ما المياني التي تهتم بها؟ الرجاء وضع علامة.

أ. محل كتاب مسجد الحادي القوي ✓
ب. محل كتاب وكالة سالي سالي ✓
ج. محل كتاب رفقة نوري ✓
د. محل كتاب حسن أبا كركيل ✓
هـ. محلات شتاك ✓
و. محلات سجاد سجاد ✓

من فضلك لا تتردد في كتابة تعليقاتكم واقتراحاتكم.

أ. وجود مكتب للوظائف في سبيل رشة وورد
ب. توفير الفرص والبرامج
ج. توفير المرافق والمعدات لتسهيل المرافق
د. توفير المرافق

【住民ワークショップ（1日目、女性：21名）アンケート結果】										
年齢	在住期間	参加者 21 職業	評価	A	B	C	D	E	F	コメント;
24	24	秘書	良		○	○	○	○		A. Sabil Kuttab attached Mosque of Ilgay Yusufi, B. Sabil Kuttab Mustafa Sinan attached Wikala, C. Sabil Kuttab Ruqayya Dudu, D. Sabil Kuttab Hasan Agha Kokalian, E. Hammam Amir Bashtak, F. Palace of Manjak Silahdar
35	35	主婦	良			○	○	○		Hammam 再開、スポーツクラブ、障害児支援学校
44	7	主婦	良			○		○		女性専用 Hammam 再開、観光客向け案内所、展示会、遊歩道、古建築の修復、スポーツクラブ、図書館、多目的ホール、各建物に紹介の宣伝ポスターや電子画面設置、観光客用の電気自動車
30	11	主婦	良	○	○	○	○	○	○	Hammam 再開、女性専用クラブ、古建築や家の修復
49	24	主婦	良	○	○	○	○	○	○	美容院、保育園、コーラン学校、無学者向けの学校
47	18	教師	良		○	○	○	○		コーラン学校、女性専用クラブ、ハンマームの再開、無学者向け学校
39	15	主婦	良			○		○		スポーツクラブ、コーラン学校、女性文化センター、美容院、インフォメーションセンター、屋上やベランダの植樹、日本語や言語学校
31	9	主婦	良			○		○		女性専用クラブ、古い家の修復、Hammam 再開
40	40	主婦	良			○	○		○	女性専用クラブ、古い家の修復、美容院、保育園
32	32	主婦	良	○	○	○	○	○	○	図書館、観光客用の案内所、子供向けの芸術などの活動教育センター
37	6	報道担当者	良			○		○		美容院、保育園、コーラン学校、無学者向けの学校
54	54	主婦	良	○						女性専用クラブ、コーラン学校、古い家の修復
38	38	シェフ	良			○		○	○	女性のためのジムを作って欲しい。貧しい人のために いらない服を集められる場所を考えて欲しい。女性に 仕事が見つかるように手伝って欲しい。
50	50	主婦	良			○		○	○	
49	non	non	良	○	○	○	○	○	○	
63	53	テレビ局 局長	良				○	○		Hammam Bashtak を復活し、女性、男性、外国人の 日を作ればよい。Hassan Agha Kokalian にはアラ ベスクなどの芸術を習える場所になって欲しい。
45	45	総務部長	良	○	○	○	○	○	○	
48	15	心理学教 師	良	○	○	○	○	○	○	
46	46	ワークシ ョップ教 師	良	○		○	○	○	○	子供にクラフトを教える他に、読み書きのクラスを作 って欲しい
72	52	non	良					○		トクトクをなくして欲しい。かわりにバスを多く通し てほしい。
55	17	主婦	良							
44.1	30	←平均		8	8	17	12	18	10	合計

【住民ワークショップ（2日目、男性：15名）アンケート結果】										
年齢	在住期間	参加者 15名 職業	評価	A	B	C	D	E	F	コメント;
57	57	俳優	良	○	○	○	○	○	○	A. Sabil Kuttat attached Mosque of Ilgay Yusufi, B. Sabil Kuttat Mustafa Sinan attached Wikala, C. Sabil Kuttat Ruqayya Dudu, D. Sabil Kuttat Hasan Agha Kokalian, E. Hammam Amir Bashtak, F. Palace of Manjak Silahdar
57	57	自営業	良	○		○		○		一番重要なのは住民に躰や道徳を教えることである。
59	9	定年暮らし	良					○	○	
50	15	Naqqash Me'adn Nahhas	良			○	○		○	文芸技術の学校を作り、研修者の手作り製品の販売店を作る。
30	30	経理	良	○	○	○	○	○	○	貴重な歴史的な建物を、放置したままにせず、保っていただきたい
33	33	レストラン経営	良	○	○	○	○	○	○	ダルブアフマルにムイッズ通りのようになってほしい
64	64	歴史の教師、店のオーナー		○	○	○	○	○	○	スーク・シラーハには思い出がたくさんあって、イードの前の夜にハンマーム・バシュタークに友達と一緒にいった。ぜひハンマームが復活することを望んでいる。小さな頃と比べると通りの景観は大きく変わってきているが、今後よくなっていくことを期待している。スーク・シラーハに関する本を執筆中だが、まだ出版社が見つからない。このような本は、居住者に対して必要な歴史的情報を伝えることができるので、ぜひ出版できるように考えている。
42	42	新聞記者		○	○	○	○	○	○	ネットでの出版を職業としており、ダルブアフマルについても特集したことがあり、Hamdy 氏に手伝ってもらった。
29	29	運転手	良	○	○	○		○		
44	44	商人	良	○	○	○	○	○	○	
48	48	弁護士	良	○	○	○	○	○	○	ゴミ会社と契約を結ぶ。トクトクや車などが道に入るのを禁じる。オーディオ図書館を作る。コンピューターの使用法と修理についてのコースの開催を望む。
34		運転手		○	○	○	○	○	○	
33	33	会計士、 ビジネスマン	良				○	○		
38	38	商人	良				○	○		
53	53	水道関連の店経営	良							
45	39	←平均		10	9	11	11	13	10	合計

【二日間のワークショップを見て】

・男性、女性を問わず参加者全員が積極的に発言を繰り返していたのが、印象的です。日本で、このようなワークショップ行くと、往々にして一人ぐらい傍観者がいるものです。

しかも、男性と女性、場は別でしたが、それぞれの観点から議論されたのはいいですね。

日本ではよほど意識的に参加者を集めないと、どうしても男性の比率が高くなる傾向があります。また、言葉の強い男性の発言に引きずられることもあります。

・今回、具体的に取り上げられた6つの歴史的資産についても、その資産が生まれた経緯、これまでの町のなかでの位置づけ等を、参加者の皆さんが十分に理解されていたことを頼もしく思います。そして、修復の必要性が議論されたことは、大変望ましいことと思いました。その上で、歴史的な使い方に準拠した使い方、新たな提案などが積極的に議論されていたようで、これも望ましい方向だと思いました。

・活用方法を議論するなかで、住民にとってこの地区に不足している施設、機能が明らかになってきたのではないのでしょうか。宗教や政治、歴史的背景を熟知していませんので、具体的な内容については、コメントしにくいのですが、女性の居場所、子供たちの居場所が特に希求されているように思いました。また、地場産業である工芸品を一同に揃えて、広く知らしめる施設も望まれているようですね。

・このワークショップを通して住民が、それぞれ個人として思っていたこと、考えていたことが、他の方々の同様な思いを抱いていたことが明らかになったのではないのでしょうか。住民自らが考えるまちづくりへの、第一歩を踏み出したのではないのでしょうか。

・特に気になったのは、ある男性が、地域を知る必要性を語っていたことです。

生まれ育った場所は、当たり前空間です。いいものは、当たり前すぎて意識に上がってきません。悪いものも、こんなものとそのまま享受してしまいます。わかっているようでわかっていないのが、地域に住まい続けている方々でしょう。これは、万国共通かもしれません。

そこで提案ですが、ワークショップ参加者たちで町歩きを行い、町のいいところ探しをしたらいかがでしょうか。一人で歩くのと異なり、さまざまな視点から町を考えることができます。

そして、いいところマップやパンレットづくり。地域の歴史や文化を盛り込み、知っているようで知らない町の魅力を、地域の方々へ、そして来訪者に広く知っていただくために。

地域を知ることによって、その地域に愛着を感じるようになります。より住みやすい町にしたいという意識を作っていくことが大事だと思います。

私の住む、川越の喜多町という自治会では、新たにここに住むようになった方たち向けに、町を紹介するパンフレットを作りました。作ってみると、昔から住んでいた人々にも知られていない町の魅力がいっぱい出てきました。

・気になっていることの一つに、地域のとらえ方です。日本だと自治会や商店会など、ある一定のエリアを母体とした地域コミュニティがあります。カイロのこれまでの様子を拝見すると、同業者の集ま

りはありそうですが、ある一定のエリアをベースとする商店会や日本の基礎コミュニティである自治会のようなものはなさそうですね。

ワークショップ参加者にとって、一体となってこのまちづくりを進めていくエリアをどのように捉えているか気になりました。

・もう一つ気になりましたのが、ワークショップ参加者の地域での位置づけです。このまちづくりを進めていこうとしているエリアにお住いの方々にとって、参加者の立ち位置はどんな感じなのでしょう。

日本の場合、公募された方と地域の代表として推薦された方が参加されることが多くあります。地域からの代表者は、地域の意見を集約して代弁できることが期待されています。

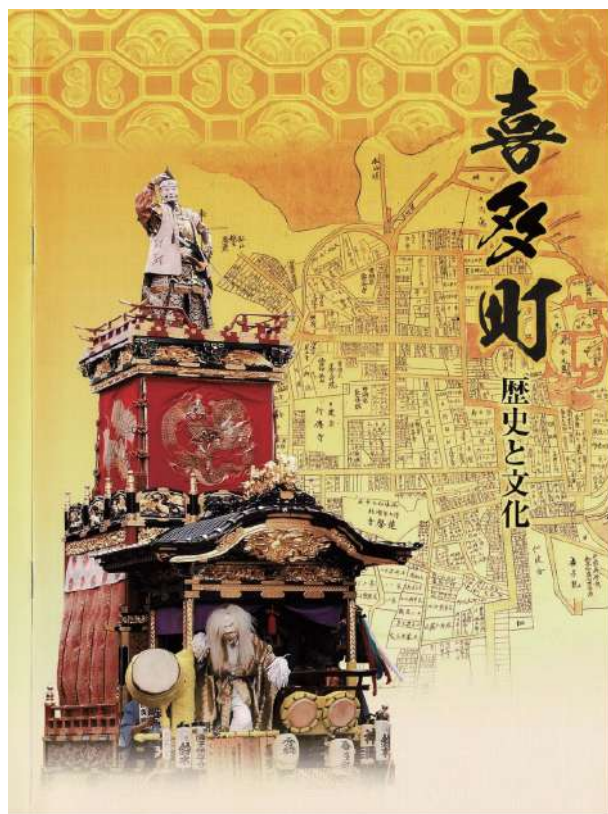
・現地の方へのお願いです。今回のワークショップの議論を、地域の共有とするための工夫をお願いしたいと思います。例えば、簡単なニュースペーパーを作り配布するなど。

川越では、歴史的資産を活かしたまちづくりを考えるワークショップの経過のニュースペーパーを、旧城下町全域の約2,700戸に配布し、情報の共有化を図りました。私が、保存施策の説明に伺った時、その通信を持ち出して、十分理解しているよと言ってくれた方もいらっしゃいました。

・もう一つ、今回のワークショップで出た意見の中で、すぐにできることを見つけてください。どんな簡単なことでもいいと思います。壁新聞一枚でも。自分たちの議論が成果となって現れることは、次へのモチベーションとなるでしょう。

参考までに

交通問題が話し合われていまして、川越も抱えています。



喜多町を紹介するパンフレット
地域内全世帯、事業所に配布



バスや自家用車、そして観光客向けの人力車が交錯する川越
2014年の写真



2009年に一方通行の社会実験をしました。しかし、周辺地区への影響の大きさなどから実現していません。



人と自動車とトゥクトゥクが交錯するカイロ

磯野哲郎

6つの歴史的建造物の利用法についての男女別のグループAとグループB、合計4つのグループの意見には多くの共通性が見られた。その点は、6つの歴史的建造物の利用法について共通意識があると考えられ、多くの地域住民の賛同を得られる可能性を反映していると思う。その一方で、マンジャク宮殿の屋上のレストラン利用（グループB女性）、ハمام・バシュタクに託児所（グループB女性）や美容室（グループA男性）のような個性的意見が見られたことも注目に値する。なぜなら、これらの個性的意見は、修復後の歴史的建造物に経済的、社会的な価値と持続的な運用のための資金源を示唆しているからである。

「観光アトラクションとしての観光利用」と言うのは簡単であるが、観光市場とのリンクや継続的で質の高い運用ができなけれ



ば観光利用は成り立たない。そして歴史的建造物の修復という技術的課題へ対応しただけでは、あっという間に経営不振に陥ってしまうことを認識しておく必要がある。観光案内所としての利用にしても、コンテンツや人材がなければ案内所として機能しない。詳細には触れないが、安定した経営や運用ができるようにするには、コミュニティ内外にバリューチェーンを作っていくことが必要である。

また、トゥクトゥクや車の乗り入れを禁止にするという意見も注目に値する。実際に適用することは容易でないが、イタリアのベニス、スイスのツェルマットのよう
に自動車を排除している事例は世界各地にある。ヨルダンのペトラ遺跡でも電動カートが導入されている。但し、地下に駐車場を作るという案は、埋蔵文化財を破壊する可能性があり、慎重さが必要であろう。ワークショップで意見はでなかったが、同じ延長線でデジタル技術の導入が考えられないだろうか。IoT や 5G 通信を導入することで、自動運転の電動カートやロボットによる物資や製品の搬入・搬出、住民の駐車場までの移動を助けることができる。歴史的街区にデジタル技術特区を重ねることで地区の経済社会的価値を高めることができる。景観上で問題になるアンテナはミナレットに組み込むことで解決できるであろう。(TI)



岡田保良

1. 文化財が有形であろうと無形であろうと、参加した住民による自分たちの町の改善に対する活発でかつ多彩な意見交換はきわめて印象的で、私たちの予想を超えるものがあつた。同時に、彼ら彼女たちが、自分たちの暮らす町の歴史性やその遺産に対して十分に自覚していることも伝わってきた。

2. 女性グループの間からは、子供たちにとって安全で健全な生活が保障できる町の再生を期待する声が目立ったほか、そこには町の将来に積極的に関わろうとする彼女たちの姿勢がみられた。アラー氏が、「女性は町の柱だ」と指摘していたが、それが単なるリップサービスではないことを実感し、看取する。

3. 男性グループの報告からは、町のもつ歴史的な風情や景観をじゅうぶんに認識しているとの自負が伝わってきた。また各モニュメントの活用というより、住民どうしのつながりや、技術工芸など無形的な伝統を大事にしようとする意見が印象に残る。

4. 今までこのような住民の意思を汲み上げる仕組みがなかったとすれば、今後の町づくりにとって、今回のワークショップの企て画は貴重なステップになったのではないか。彼ら彼女たちが、自分たちが共有する遺産として、いまの町なみの保存活用とより住みやすいコミュニティづくりに深くかかわっていくことに対し、私たちが多少なりともそのあと押しができるとすれば、このプロジェクトの意義は小さくないのではないかと思う。

5. この街区が 1979 年に Historic Cairo として登録された世界遺産のエリア内である点、その「顕著な普遍的価値 OUV」が何だったかについては、町の変化に合わせて確認し続ける必要がある。

ユネスコ世界遺産委員会は、その不完全な保全状況に対して繰り返し改善することを勧告しており、2021 年の委員会決議を見ると、登録範囲の地図すらまだ完成しておらず、個々の建物以上に街全体の劣化が進行していて、もはや不可逆的な状況に達しそうだという懸念が表明されている。

そのことは、Historic Cairo にとって由々しき事態ではあるが、どこか他の世界にありがちな世界遺産にしがみつくとすることを意味するものでは決してなく、彼ら自らが望むべき町の姿こそ、世界遺産というブランドを維持する方向性であることを信じたい。

柏木裕之

若手エジプト人建築家とともに 4 回に渡り、スーク・シラーハ周辺の建造物について、推定建造年代や構造、階数や現在の用途、出入り口の位置などについて悉皆的な基礎調査を実施した。1950 年代以降に建てられた建造物が多く、鉄筋コンクリートの柱、床と焼成煉瓦壁で構成される現代の建造物も多数を占めた。またシャッターが閉ざされたままの空き店舗も目立った。

歴史的イスラーム建築と呼ぶべき古建造物は、現役のモスクなどの例を除けば、大半が廃墟の状況を呈していた。その要因として 1992 年のカイロ地震を挙げる住民がおり、応急的な措置のまま放置されている遺構も観察された。歴史的建造物には持送りが多く認められることから、当初は上階を持つ構造であったと推測されたが、現在は崩落し、一階の壁だけが残存する状況にある。工房や倉庫として活用される例も散見されたが、多くはゴミが不法に投げ捨てられ、衛生環境の悪化を招いていた。これらの遺構は政府によって順次解体、撤去される予定で、住民の多くも支持している。だが憂慮すべき現状とはいえ、遺構の消失はこの地区の歴史性の希薄化につながるものが危惧される。そのため取り壊しを安易に進めるのではなく、まずはゴミを回収し、歴史的な建造物として見つめ直し、再評価する時間を稼ぎながら、何らかの活用方法を模索することが望まれる。

一般に町並み保存が模索される地域は、比較的短い期間に集中的に資本が投下され、町並みの骨格が高い完成度で作り上げられたケースが多く、後の世代はそれを維持すればよかった。逆に言えば町並みの保存は、その維持が困難になってきたことに発する。スーク・シラーハ周辺も同様で、モスクとその周囲には石灰岩ブロックによる低層住居群が広がっていたと推測されるが、現在は低層階の上に複数階

を増築しているケースも見られ、複雑な様相を呈している。また RC 造の現代建築も多く、かつての風景を取り戻すことは容易ではない。まずは点在する歴史的な遺構をいかに維持し、つなげていくかが課題であろう。

現在のエジプトは、重機が唸りを上げ、国土の開発が活発に行われている。その姿はかつての日本のバブルと重なり、そうした風潮の中で古建造物の維持という提言は理解されにくい。だがバブルはいつか必ず弾ける。バブルで多くの歴史を失った日本として、現状維持は後ろ向きではないことを粘り強く伝えていく必要があるだろう。

今回周辺住民による意見交換会を実施した。最高の会議とは知らない人が見たら喧嘩しているとは思えない会議であるという言葉に改めて実感した。とともに住民の地域に対する深い愛情や歴史的建造物に対する正確な理解、活用への強い関心にも正直驚いた。一方で参加者に地元の職人が少なかった点が気がかりであった。スーク・シラーハ周辺は職住一体のまちであり、特に家具や柱間装置などを作る木工職人の割合が多い。木工のまちとして持続的に発展するためには住居だけでなく、職場環境の改善、向上も欠かせない。今後の大きな課題である。

宍戸克実

住民の皆さんが地域の問題や魅力について議論している姿に、私はとても感動しました。活動を継続することにより、Souq Silah の地区環境はよりよくなっていくと思います。ワークショップでは、地域や居住環境について色々な意見が発表されました。特に、街路環境の問題、子供たちの安全な環境、歴史的建築遺産の有効利用、観光化に関する意見が多かったと思います。

Souq Silah をオープンミュージアムにしたいという方向性にはとても共感しています。一つ一つの歴史的建築遺産が小さくても、Souq Silah の魅力を生かすことができればオープンミュージアムの実現は可能だと思います。オープンミュージアムでは、地域住民は重要な演者になります。歴史的建築遺産と共に生活する住民の姿こそが、オープンミュージアム最大の見所と言えます。

マンジャク宮殿は、Souq Silah の表玄関と言える場所にあります。地域外からの訪問者に対して、地区のゲートでありシンボルを示すことのできる場所だと思います。Souq Silah で生産される伝統工芸品や手工芸品、食品、菓子などを展示・販売したりする場所に適していると思います。

ハンマーム（公衆浴場）遺構は Souq Silah の中心的な場所に立地しています。ハンマーム周辺は伝統的な広場ですが、交通量が多いため歩行者にとって歩きにくい場所になっています。ハンマームを再建して、昔のままの形と機能を取り戻すアイディアは素晴らしいと思います。また、曜日や時間を分けることにより、観光客と共用することが可能だと思います。歴史的に、ハンマームは地域住民の交流空間としての役割を担ってきました。ハンマームはかつて、女性たちにとってのアフワのような場所だったと言われています。美容院やマッサージ施設を望む意見がおおく見られたことから、女性の交流施設が渴望されていることが推察されます。現在のカイロではハンマーム文化・習慣のほとんどが失われているようです。日常的な使用を目的とした公衆浴場にするのは難しいかもしれません。結婚や儀式、宗教イベントのような特別な機会に利用するようなハンマームにするというアイディアが現実的なように思います。女性住民が日常的に利用できる機能として、共同洗濯場や共同キッチンなどが考えられます。また、女性や子供の日常生活を支援する施設なども候補として考えられます。

Sabil Kuttab に関しては、本来の宗教的機能の再開を望む意見が多くありました。これもやはり、学童保育的な役割が期待されているのだと感じました。Sabil Kuttab を図書館にするというアイデアに賛成です。複数ある Sabil Kuttab を分散型の図書館として活用することで、教育支援や学童保育的な役割を担うことができると思います。それぞれの Sabil Kuttab は書架と学習室で構成され、利用者の年代や性別、分野で分散させることも可能です。

Souq Silah 通りの重大な問題は、やはり交通だと思います。自動車の存在しなかった時代に成立した歴史的都市とその街路は、歩行者のスピードとサイズで形成されています。Souq Silah で車と歩行者が共生するためには、車の乗り入れを制限する必要があります。車の時間帯制限や一方通行制限、人力による車両の導入なども考えられます。また、歩行者優先の空間であることを強調する街路デザインを採用し、自動車がスピードを出しにくくする手法もあります。街路樹を植えることは、景観的、環境的にメリットがある一方、街路の幅を狭くしてしまうデメリットがあります。壁面緑化や街路上緑化という方法もあります。共通デザインのオーニングや庇を建築物ファサードに設置することで、個性的な街路風景を生み出すことができます。

檜山元一郎

スーク・シラーハ通りに点在する 6 か所の歴史的建築などの有効利用等を足掛かりに同地区の暮らしをどの様に改善したいかを地域住民が 2 日に渡り活発に話し合った。ファシリテーターとして同地域に長年に渡って携わっている 2 名の建築家が務めたことで、限られた時間で住民の考えを分かち合えたように感じている（写真⑧）。個人的には地域住民の交流の場としてハンマームの復元を望んでいる声が上がったのが、風呂好きの私としては嬉しかった。

参加者が大人に限られていたことにも起因するが、印象深かったのは参加者の方々が同地区の歴史的価値を理解され、景観や街の安全についても懸念されている点だった。地震などで一部倒壊しかけている建物や廃墟の扱い、ゴミのポイ捨て対策、狭い街区内での交通往来の危険と課題は多く、解決もなおざりになっている。事前に地域全体を見て回ったが、緊急度の高い内容も点在している。ここでは官民の垣根を超える発想が求められる。

2 日間を経て、予算の確保や責任分界点の明確化と調整事項が多いことは認識しているが、マンジャク・シラフダール宮殿とハンマーム・バシュタークを復元して新しい形態で利用することで地域再生の為の取っ掛かりのシンボルとするのも一案と感じた。何れも劣化が激しく、早期に手を付けることが望まれる建物である。これによって街にも新しい息吹を注ぎ込むことが出来ればバイトヤカンと同様に愛され、地域整備への布石に成り得るだろう。用途次第では観光客の利用も増えれば自ずと注目を浴びるので、ひいては街が文化的に向上すると考える。

その他、浅い知見の中で何点か特に気になった事象について挙げたい。

- ・居住中の建物が倒壊しかけている。行政の早期介入が必要。下記写真①ではアパート頂部が道を挟んで対面アパートに倒れ掛かっている。
- ・廃墟となっている建物の取り扱いを判断して、倒壊する前に必要に応じた補強などの対策が急務。（写真②③）

- ・ゴミのポイ捨てが目立つ。トゥクトゥク同様に公共のルールや社会生活の規律をどの様に根付かせるかは難題。(写真④⑤⑥⑦)



①



②



③



⑥



⑦



④



⑤



⑧



深見奈緒子

街の未来について、住民の声を聞くことは、とても重要なことである。なぜならば、通りの雰囲気、息遣い、そしてそこに立ち並ぶ建物について、一番馴染み深いのは、毎日をそこで過ごす住民たちである。そして、その通りがよくなったり、悪くなったりする鍵も彼ら住民が握っていると言えるだろう。毎日の居場所を少しでも良くしていくには、どうしたら良いのだろうか。もちろん、政府や公の事業や助成が必要であることには間違いないが、また、私たちのような他者が意見を言い、蓄積された知恵を共有したりすることも重要なが、住民たちが、自分たちの街の良さに気づき、それを誇りに思えるようになっていくことが、街の未来を保証するもっとも重要な一つの道筋であると私は信じている。

今回は、このワークショップに出席して、出席者が皆、前向きに街のあり方や、歴史的建築の再利用について臨んでいることを、とても遅しく感じた。色々な問題があると言うことを、自分たちできちんと認識していることは、スーク・シラーハを良くしていくことの基盤となるだろう。また、6つの歴史的建築に対して、これはいらないというような意見を言う人がいなくて、みんなが修復してみんなの場所として用いたいと考えていたかったことにも安堵している。加えて、女性たちは、今のスーク・シラーハにはなくて、自分たちの生活に必要なみんなの場所を、そこに入れ込むことを、楽しげに語っていた。それに引き換え、男性たちは、根本の問題を重視し、熱く議論をかわしていた。今回のワークショップを男女別に開催したことは、よかったと感じている。私たち、口をつぐみがちな日本人に比べると、スークシラーハの人々は、自分の意見をはっきりと伝えることに、本当に長けていると感じた。

ファシリテーターとしてのサラ教授とアラ氏、そしてその教え子の建築家たちの力は、想像にあまりあるものであった。住民たちとの間をつないで、彼らの意見を引き出したのは、彼らのおかげである。そして、通訳者の人々にも、お世話になった。みんなの協力の賜物である。

一つ気になった点は、住民の観光に対する意識である。ムイッツ通りのようにしたいという意見があったが、ムイッツ通りには、なんだか生活感が欠けていると私は感じる。一步奥に入れば、スーク・シラーハと同様に、賑わいが街を包んでいるのだけれど。スーク・シラーハの観光化は重要な課題となるであろう。ただ、私としては、ムイッツ通りとは異なった形の、もっと観光に来た人が、そのコミュニティと対話をもち、ただ単に古い建物を楽しむだけの場所ではない方向性を考えて欲しい。

こうしたワークショップを続けていくことは、住民が街の通りや歴史的建築に対する意識を持続していくために重要なことであると考えます。それと同時に、いかにして住民の意見を汲み取ったプロジェクトを実現に移していくのかと言うことが、大きな課題であろう。事業の実現のためには、大きなお金が必要だけれど、例えばゴミ問題や道德の問題などは、住民の身近な注意や気づきで、改良される点もあるのではないかと考える。

私は、アジアの東の日本で、イスラーム文明の残した建築文化について研究していて、いつもスーク・シラーハの歴史的建築を訪れるたびに、ここに住んでいる人たちを羨ましく感じている。あんまり近くに居るので、住民の方達は気づいていないのかもしれないけれど、6つの建物それぞれに素晴らしさがある。マンジャク・シラフダールの門の素晴らしい石細工の天井は他に類例がない、イルゲイ・ユーズフィーのサビール・クッターブの特徴的な柱頭と建設の物語はマムルーク朝の歴史を紐解かせ、サビール・シナーン・パシャの赤い色が美しいイズニク・タイルを幾何学的に配置し、ルカイヤ・ドウドウは真珠の宝石箱のような作品で、ハンマーム・バシュタークの色大理石の入り口から入る伝統的なハンマームはどんなに気持ち良いものだろうと想像し、ハサン・アガー・コーカリアーンはコミュニティの場となったバイトヤカンの入り口に相応しい建築である。これらの素晴らしいモニュメントが、実際に住民たちによって、大切に使われる日を夢見たい。

布野修司

議論そのものには参加できませんでしたが、ファシリテーターによってまとめられた参加者の様々な提案をみると、短い時間であったにも関わらず、数多くのすばらしい提案が含まれていると思います。問題は、様々なアイデアをどう実現していくか、だと思います。素晴らしい提案も、実現していく過程では、地区の住民の合意形成が必要ですし、様々な法・制度、行政当局との調整が必要になります。そして、何よりもファンドが必要になります。

まず、提案したいのは、今回のようなワークショップを持続的に行うゆるやかな組織体を住民、専門家、行政当局を含めたかたちでつくることです。そして、できること小さなことから始めるのがいいと思います。また、具体的な活動を広く世界に発信し、共通する問題を抱えた他の地域の人たちと交流し、お互いの経験に学ぶといいと思います。今回、オンラインで参加したのですが、日本のまちづくりにとっても、大きな刺激になると思います。

ファンドについては、イスラームにはワクフの伝統もあります。近年ではクラウド・ファンディングも可能性があると思います。国、行政当局による事業化を期待するうえでも、とにかく小さな実績を積み重ねていく姿勢が必要だと思います。

連健夫

■1 日目、住民ワークショップ（女性）で感じたこと

オンラインであり、アラビア語、英語、日本語の三ヶ国語を扱う難しさがある中、とても良いワークショップになったと感じました。日本側の住民参加のまちづくりの紹介の意図を、アラー氏とサラー氏がしっかり受けとめ、スーク・シラーハの更新への思いを参加者に伝えている感じがしました。グループディスカッションは、とても話が盛り上がっている感じがありました。発表では、サラー氏と住民と一緒に発表し、専門家（建築家）と住民とのコラボレーションを感じました。興味深かったのは、マンジャク・シラーフダール宮殿について、観光利用のみならず、子供たちのための公園ゲート、子供向けのオープンシアターなど、子供の利用が提案されていたこと、またハンマーム・バシュタークでは美容サロンの提案や、サビールでの手工芸品の展示など女性らしい提案があったことです。スーク・シラーハ全体をオープンミュージアムとして捉え、観光に活かすことのみならず、図書や高齢者の文化的利用、コーランを学ぶ学校など、教育や文化に関わる利用が提案されており、外部利用と住民利用の両方の目線があることは、大切なポイントと感じました。



■2 日目、住民ワークショップ（男性）で感じたこと

停電でスタートは遅れたが、1 日目でできなかった深見さんの6つの歴史的建物の話と、発表後に日本側からのコメントができたことは、全体のまとまりがあり良かったです。つまり、日本人専門家から見たイスラム建築の価値を伝えた上でディスカッションができたこと、住民が日本側からの客観的評価を聴くことができたからです。パソコンから見るグループディスカッションでは、熱い議論が交わされている感じがしました。発表で興味深かったのは、車の混雑や周囲の建物の劣化の問題が話題になっていたこと、住民がこの街の良さを知る必要があると熱弁されていたことです。これに対して、日本側からのコメントとして、住民で話し合うことにより問題を共有することの大切さや、布野先生からのクラウドファンディングの紹介、荒牧氏から川越で住民自身が街の歴史パンフレットを作成したことを紹介されるなど、住民と日本側の専門家がキャッチボールできたことも、今回のワークショップの成果と思いました。



■更新案への意見・提案

住民のアイデアと専門家であるアラー氏とサラー氏の思いを、うまくブレンドしていただきたいと思います。以前、アラー氏から木工製品の展示場所や博物館、事務所が必要という話があり、今回のワークショップの提案にはなかったですが、それらも是非、更新案に入れると良いと思いました。